

松代象山地下壕

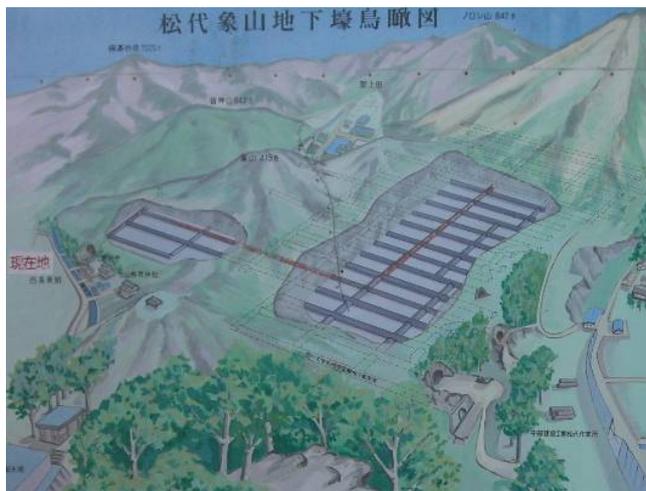
施設管理者 : 長野市観光課
施設所在地 : 長野県長野市松代町地先
調査見学時期 : 平成19年11月9日
施設概要

松代地下壕は、第2次世界大戦の末期、軍部が本土決戦最後の拠点として極秘のうちに大本営、政府各省庁を松代に移すという計画のもとに構築したものです。昭和19年11月11日に着工され、当時の金額で約2億円の巨費と延べ300万人の労働者によって工事が進められましたが、全工程の75%の時点で終戦となり工事は中止されました。

地下壕の掘削は、底長4m、頂高2.7mの断面で20m間隔に行われており、横の連絡坑も20mごとに掘削されています。掘削工法は、1日2交替(12時間労働)を基本に、ダイナマイトで発破して崩した石屑をトロッコなどを使った人海戦術で運び出すというものでした。

地下壕は、舞鶴山(現気象庁精密地震観測室)、皆神山、象山の3か所でそれぞれ網の目のように掘り抜かれており、その総延長は10km余に及んでいます。このうち、象山地下壕(延長5,853.6m)の約500m区間が平和の史跡として一般に公開され、年間13万人を超える見学者が訪れています。

(参考資料; 太平洋戦争の遺跡 松代象山地下壕 パンフレット)



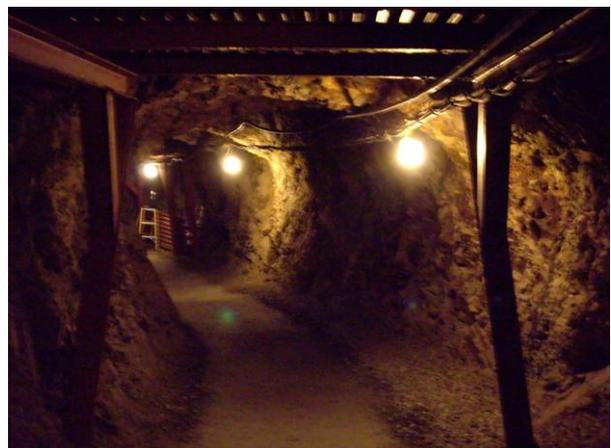
松代象山地下壕鳥瞰図



位置図(出典;松代象山地下壕パンフレット)



象山地下壕入り口



壕内の状況